



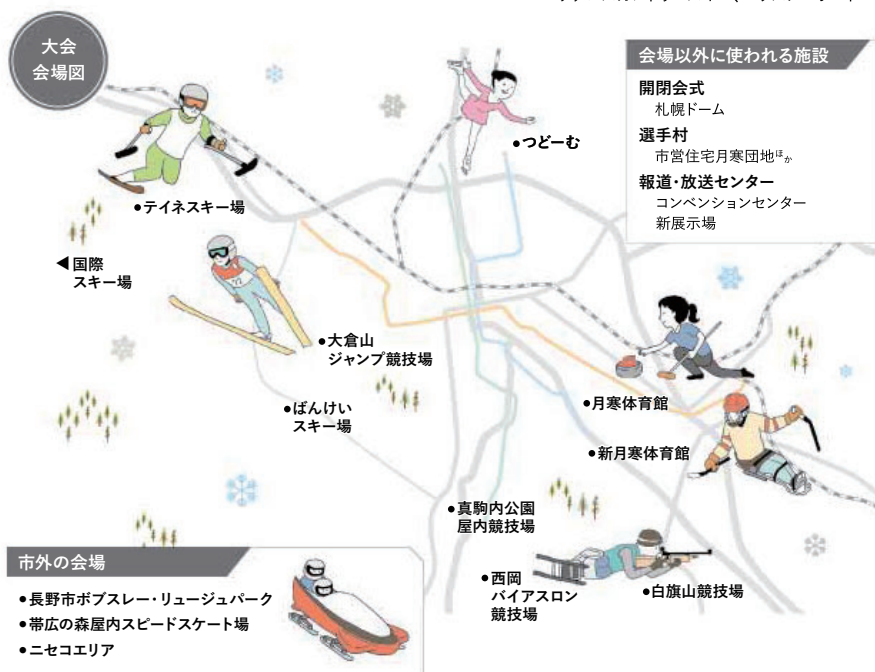
2030年大会の概要(想定)

オリンピック

開催期間 2月8日(金)～24日(日)
参加アスリート数 2,891人
競技数 7競技109種目
アイスホッケー、ボブスレー、リュージュ、
スケート、カーリング、スキー、バイアスロン

パラリンピック

開催期間 3月8日(金)～17日(日)
参加アスリート数 563人
競技数 6競技80種目
パラアイスホッケー、車いすカーリング、
パラバイアスロン、パラアルペンスキー、
パラクロスカントリースキー、パラスノーボード



大会概要案から 2030年冬季大会招致を考える

札幌オリンピック・ パラリンピックと未来のまちの姿

詳細 招致推進部調整課 ☎211-3042

目指すべき方向性としての大会ビジョン

札幌らしい持続可能な オリンピック・パラリンピック

～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

地下鉄や道路網など、まちの基盤整備が進んだ1972年の冬季オリンピックから50年——。約200万人の人口を誇る大都市へと発展した札幌市は、10年後はもちろん、将来にわたって誰もが暮らしやすく世界に誇れるまちを目指して、その大きな転機となる初のパラリンピック、2回目のオリンピックの開催に向けた検討を進めています。

今回の大会概要案では、2019年に実施したワークショップで頂いた皆さんからの意見などを基に、大会を通じて目指すまちの姿と大会によって得られるメリットを、4つの観点で整理して明確化しました。また、コロナ禍や東京2020大会も踏まえて2016年の計画案を見直したものとなっています。多くの人を魅了し輝き続ける、持続可能なまちづくりに向け、大会招致への皆さんのご意見をお寄せください。

札幌市長 秋元 竜二

2030年大会招致に向けた 計画検討の流れ

1 大会概要案の公表
ホームページ、区役所などで配布中

札幌市 大会概要案 検索

市民対話

シンポジウムのほか、ワークショップ、各区での区民ミーティングも実施予定。詳細はホームページなどでお知らせします

札幌市 冬季オリパラ 検索

計画検討に反映

3 市民対話などで頂いた皆さんからの意見を今後の計画検討に取り入れていきます



世界に躍進する 魅力あふれるまちづくり

今後訪れる人口減少は、経済規模の縮小につながる課題です。また、施設の老朽化はまちの活力を低下させます。大会を通じて魅力的なまちへとリニューアルし、観光都市札幌や北海道の名前を世界に広くアピールすることは、経済活性化の起爆剤となります。



※北海道新幹線の札幌延伸は2030年度末を予定

レガシーの例

- 「世界に誇れるスノーリゾート・国際都市札幌」の認知
- 情報通信技術を活用した切れ目の無い快適な移動環境の構築
- スタートアップ※の支援
- 誰もが活躍できる雇用環境の確保
- 施設などの老朽化対策・まちのリニューアル

※短期間で急成長を目指す企業



キーワード

「スノーリゾートシティSAPPORO」



世界で雪が降る大都市といえば、どこを想像しますか？札幌には充実した観光資源や商業施設、飲食店に加え、都心部から車で1時間以内の場所に6つのスキー場があります。約200万人の人口規模でありながら年間約5mの雪が降る世界で唯一の都市を、スノーリゾートシティとしてブランド化し、大会を通じて世界に発信することで、国内外の観光需要の増加が期待されています。

キーワード

新たな移動サービス「MaaS」

情報通信技術の発達で生まれた、スマートフォンなどを使った次世代の移動サービス。バス、地下鉄、タクシー、カーシェアなどの移動手段を組み合わせ、経路検索から予約、決済までを一度に終わらせることが可能です。こうした新たな技術を活用することで、市民の利便性が高まるだけでなく、観光や物流にも好影響が期待されます。



スポーツによる 健康で活力のある社会

健康寿命※が全国平均より短い札幌は、2040年代に65歳以上の人口がピークを迎え、その割合は現在から約10%増えて約38%になると推計されています。成熟した社会で、人々が健康で多様な生きがいを持つまちをつくっていくことは、差し迫った課題となっています。

※健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間



レガシーの例

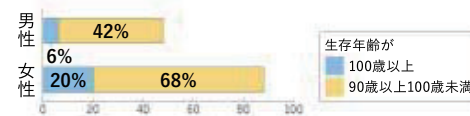
- スポーツ医学を市民の介護予防に活用することなどによる健康寿命の延伸
- ボランティア文化の定着
- 気軽にスポーツができる環境の整備と運動習慣の定着
- トップアスリートの輩出・強化・育成のための拠点づくり
- オンライン上で実際に体を動かして競うバーチャルスポーツの普及・促進

キーワード

「人生100年時代」

平成の30年間で約5年延びた日本人の平均寿命。2040年にかけてさらに約2年延びる見通しで、健康寿命を延ばすことに加え、人生における働き方や学び、社会参加などの選択肢を豊かにする環境整備が大切です。

- 2040年に65歳の方が90歳・100歳まで生きる割合(推計)



参考：令和2年版厚生労働白書

大会開催で目指す 未来のまち

今回の大会概要案では、4つの観点から、目指すまちの姿を「ターゲット」として設定。大会の開催によってもたらされる「レガシー」は、皆さんの意見を頂きながら、さらなる検討を進めていきます。札幌をどんなまちにしていきたいか、一緒に考えてみませんか。

スポーツ・健康

経済・まちづくり

社会

環境

ターゲット

大会の開催で目指すまちの姿

レガシー

大会によって得られるメリット

お金の面は どうなっているの？

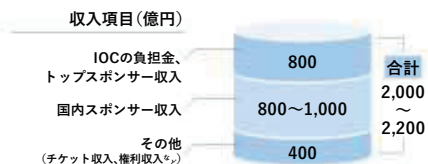
競技や参加者の数の違いなどから、夏季大会の3分の1以下といわれている冬季大会の経費。2016年の計画案から、大会の実施に支障がない範囲で見直しを行いました。

大会運営費

セキュリティや輸送、宿泊に要する費用や、観客席の一時的な増設などにかかる仮設費用など

収入

原則として税金は投入せず、全て民間資金による収入で賄う計画としています。



支出

東京2020大会のコロナ対応などから、不測の事態への予備費として予算全体の10%を見込んでいます。



施設整備費

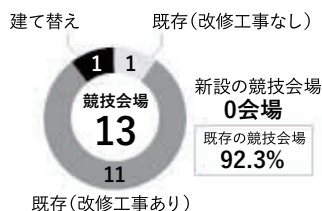
大会後も利用される施設の整備費用など

既に使われている施設を今後も使っていくための更新・改修のみを行い、大会のためだけの新しい施設は造りません。

施設整備費 総額	800億円
うち、札幌市実質負担額	450億円

これまでの計画からの変更点

- ボブスレーなどのソリ競技は長野市の既存施設を活用
- 真駒内公園屋内競技場は建て替えを行わず、改修のみ
- メディア村は既存のホテルを使用 など



《さらに一步》

施設の整備にも環境の視点を

既存施設の活用は環境保全の観点からも重要。新規の競技会場を造らないことで、樹木などの伐採は競技に必要な最小限に抑えることができます。

長野市ボブスレー・リュージュパーク



◀長野1998大会時にボブスレー、リュージュ会場として利用されたソリ競技施設

真駒内公園屋内競技場



▶札幌1972大会時にフィギュアスケート、アイスホッケー、開会式の会場として利用された施設



皆さんからのご意見を募集しています

はがき、ファクス、Eメールで招致推進部調整課(〒060-0002中央区北2西1 ORE札幌ビル内、ファクス211-3048、Eメールolypara@city.sapporo.jp)へ

社会

全ての人にやさしい 共生社会の実現

障がいのある方が暮らしやすいと考える割合が29.6%と低い札幌。パラリンピック選手の活躍や大会ボランティアへの参加などを通じて多様性への理解を促進しつつ、バリアフリー化で誰にとっても暮らしやすいまちを目指します。



レガシーの例

- 建物や道路などのバリアフリー化の促進
- 心のバリアフリーの普及
- 多文化への理解促進
- 障がい者スポーツへの取り組みの促進

キーワード

「共生社会」



障がいの有無や性別、年齢などにかかわらず、全ての人がお互いを尊重し、支え合い、共に生きていく社会のこと。札幌で初となるパラリンピックの開催は、まちの設備の面だけでなく、人々の意識の面でもバリアフリーのまちづくりを進める原動力になります。

■多様性の観点はさまざま



環境

次世代が豊かな自然を 享受できるまち

北海道の年平均気温はこの100年で約1.6℃上昇。世界平均の倍以上の上昇となっており、今後、気候変動の影響により、経験のない規模の自然災害や感染症のリスクが懸念されています。

レガシーの例

- 再生可能エネルギーの利活用
- 脱炭素型ライフスタイルへの転換
- 排出ガスを全く出さない自動車の普及
- 省エネルギーを徹底した建物の普及
- 森林などの自然環境保全

キーワード

「ゼロカーボン都市」

過去1,400年で最も暖かいとされる現在の地球。その原因の一つである二酸化炭素などの温室効果ガスを、暮らしや経済活動の中で出す量と森林などが吸収する量を同じにすることで、実質排出量ゼロとなるまちを目指すのがゼロカーボン都市の考え方です。札幌は2016年の排出量と比べて2030年までに55%削減、2050年には実質ゼロとする目標の達成に向けて、取り組みを加速していきます。